

令和7年度 園自己評価表

株式会社 創生

さくらんぼ保育園

さくらんぼ保育園では、日頃の保育の質の向上を目指している。

個人の自己評価を通して園の課題、保育の課題を見つめなおす機会としている。

【評価について】

A・・・しっかりと取り組めた

B・・・一部、見直しが必要

C・・・課題があり改善する必要がある

D・・・取り組めなかった

自己評価内容

1, 保育理念・目標・計画等

自己評価内容	評価	考察・課題改善
さくらんぼ保育園の理念・方針等を理解して取り組んでいますか。	A	保育方針の理解は、毎年年度末に話し合う事と、日々の保育でも保育理念や目標を軸に取り組んでいる姿が見られる。理解して実行することが継続してできるように環境を整えていく。
人権に十分配慮すると共に文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるように配慮していますか。	A	
あなたは一人一人のありのままの姿を受け入れることが出来ますか。	A	
面談での自己成長目標を理解して取り組みましたか。	A	
さくらんぼ保育園、今年度のキーワードを、理解して取り組みましたか。	A	

2, 人権・保育目標・養護・健康・食事・人間関係等

自己評価内容	評価	考察・課題改善
「家庭的チーム保育」を理解して実行できましたか。	A	さくらんぼ保育園が横浜保育室の時から目標と、認可移行後の目標、さらに毎年の「キーワード」を踏まえて、子どもたちの人権・職員同士の人権を常に念頭に置き保育に取り組んでいる。 また、キャリアアップ研修や、その他の研修に加え、他の保育園に行き保育の見学をしたり、その場で保育に参加して自分自身の保育の振り返りをしている。また、他の保育園の職員の見学保育を受け入れ、実際の保育を見て頂きアドバイスや改めて
「働きやすい職場づくり」について、自ら考え取り組みましたか。	A	
新入職員・同僚へ丁寧な対応はできましたか。	A	
給食の時間や午睡の時間、またトイトレなどの際に適切な対応はできましたか。	A	
「子どもの性」に対する配慮を常に考え、職員同士で話し合ったり、適切に対応できましたか。	A	
「同僚職員の良い所」を見つけられましたか。	A	
子ども一人一人の発達状況と子どものおかれている事情を理解し、保育を行なっていますか。	A	
保育の主役は子どもであることを常に心に留めていますか。	A	

子どもに分かりやすい言葉づかいで、穏やかに話しをしていますか。	A	<p>良いところを確認する機会を設けている。</p> <p>職員離職率が少ないため、連携や見通しを持つ保育については試行錯誤しながらも取り組んでいる。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き子どもたち一人ひとりの主体性を大切にし、自然な形で多様性の保育ができる環境の取り組み。認可移行3年目ですので、幼児保育の充実と、就学に向けて保育のカリキュラムの構築。 ・報連相の充実を図る <p>報連相の漏れが稀にあるが、必要な情報も失念している時が見られたため。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育計画の中に、購入物品の予算も考えられるようにする。
子どもがのびのびとからだを動かせるよう、時間、場所、遊びを確保していますか。	A	
外遊びや散歩など戸外で遊ぶ機会を多く取り入れていますか。	A	
保育士自身が積極的に子どもと関わり遊んでいますか。	A	
子どもが残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていませんか。	A	
子どもが落ち着いて食事を楽しめるよう工夫していますか。	A	
時には様々な場所で食べるなどの工夫をしていますか。	B	
子どもは一個の人格を持った存在として謙虚に接していますか。	A	
子どもが保育士や友だちと共に過ごすことを楽しめるような配慮をしていますか。	A	
園生活の中で、自分でできたという充実感を味わえるような体験を取り入れていますか。	A	
つまづきや葛藤、けんかななどの経験が成長に欠かせないものにとらえ適切に対応していますか。	B	
異年齢の子どもの交流が行われていますか。	B	
子どもが自然現象の不思議さに気付けるように一緒に調べたり考えたりしていますか。	B	
一人一人の子どもをよく観察し、その場に適した言葉がけを心がけていますか。	A	
正しい言葉遣いや声の大きさに配慮して子どもに話しかけていますか。	A	
音楽に合わせて歌ったり踊ったりして楽しめるよう援助していますか。	A	
様々な音、色、形、手触り、動き、味、香りに気付いたり心地よさを感じる機会をつくっていますか。	B	

3, 乳児保育

自己評価内容	評価	考察・課題改善
離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っていますか。	A	乳児保育については、横浜保育室の時から取り組んできた「家庭的なチーム保育」を実践。 子どもたちが日々楽しく過ごし、遊びながら学び、遊び込みからの発展ができる環境づくりが自然にできるように工夫している。 製作活動などは年齢に合った活動と遊びや取り入れた工夫。また、見本は作るが、あくまでも見本なので自由に製作する取り組みをしている。 課題としては、玩具の定期的な見直し、遊びの幅や遊び込める環境の向上をめざす。
おむつ交換時には、やさしく声をかけたり、スキンシップを行っていますか。	A	
一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、配慮していますか。	A	
外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けていますか。	A	
喃語には、ゆったりとやさしく応えたり、ふれあい遊びを行っていますか。	A	
寝返りのできない乳児を寝かせる場合には安全に配慮し、呼吸と体位のチェックを行い、記録をしていますか。	A	
事故予防に努めた保育を行っていますか。(おんぶ、抱っこ、オムツ交換時など)	A	
継続的に同じ保育士とかかわりが保てるよう配慮していますか。	A	

4, 延長・長時間保育

自己評価内容	評価	考察・課題改善
好きなことをしてくつろげる空間や遊具を用意していますか。	A	さくらんぼ保育園では、子どもたちに寄り添い、また保護者にも寄り添う事を大切にしています。その為、長時間保育や延長保育には特に配慮している。情緒の安定と保護者支援を考えた声掛け、合同保育での玩具の配慮。
一人一人の子どもの要求に応じて、抱いたり、声をかけるなど、ゆっくりと接していますか。	A	
異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されていますか。	A	
子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っていますか。	A	
お迎えが遅くなった子の不安な気持ちを汲んで対応していますか。	A	

5, 障がい児保育

自己評価内容	評価	考察・課題改善
障害児保育について定期的に話し合う機会を設けていますか。	A	障がい児保育については、職員の研修参加と、療育センターや民間の児童発達支援施設との連携を行う。 障がい児支援と同時に保護者支援も行い、園内での共有や現状把握などの連携も強化している。 加配職員だけでなく、保育園全体で支援できる環境を作っている。
障害児保育に関する研修を受けていますか。	A	
医療機関や専門機関から相談や援助を必要に応じて受けていますか。	A	
障害のある子どもの保護者との話し合いの場を設けて、不安や焦りなどの悩みを抱えている保護者の気持ちの援助に心がけていますか。	A	
就学など将来の方向を決めやすいように保護者の求めに応じて相談にのったり、情報を提供したりしていますか。	A	